

“ふるさとちば”のための政策推進を



鈴木まもる県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会 〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411



登壇し、一般質問を行う鈴木衛県議

「地方創生」の動き急

9月県議会 一般質問

鈴木議員 安倍内閣は引き続き経済優先でデフレからの脱却に取り組むとともに、「地方再生」と「女性が活躍できる社会」の実現に重点的に取り組むとしている。その最大課題の一つとして「元気で豊かな地方の創生」が掲げられた。

止めをかけることで、50年後に人口1億人を維持する目標を掲げるとしている。そのようなことから、15年度予算はその実現に向けた重要な試金石となると言われている。

本年7月4日に国土交通省から発表された「国土のグランドデザイン2050」では、2050年には現在の居住地域の6割以上の地点で人口が半分以上になるという急激な減少と衰退を予測した上で、「大都市圏域と地方圏域 依然として進展する東京一極集中からの脱却」と示されている。そして、基本戦略では「国土の細胞としての『小さな拠点』と高次地方都市連合等の構築」と提起している。

7月15日、全国知事会において、「少子化対策と東京の一極集中対策を同時に行っていく必要がある」とし、「消滅自治体」を懸念する「少子化非常事態宣言」が出されている。

9月3日の内閣改造のテーマは「安全保障」並びに「成長戦略」と「地方創生」にあることが明確になったと感じている。そして同じく9月3日に「成長戦略」の要となる「まち・ひと・しごと創生本部」が設置された。

このような安倍内閣による「経済再生」「国土強靱化」「成長戦略」「人口抑制制」「地方創生」という動きの中

国の動向注視して 県は最大限の力を

がある」と言われている。その一方で、地方部では「景気回復の実感が薄い」と状態にあり、安倍総理は「全国、津々浦々に回復が感じられるようにしていく」とし、6月15日「地方創生本部」の設置を表明した。

知事 来るべき人口減少社会において、活力ある社会を維持していくことは、本県においても重要な課題であります。国と地方が総力を上げて取り組むべきものと認識しています。

また、人口減対策の長期ビジョンと来年度からの5年間の総合戦略は年内に作成する事も示された。これらの国の動向を注視して、本県としても知事が目指すくらい満足度日本の達成のため、最大限の力を注いでいただくよう要望する。

有識者で構成されている「日本創生会議」は、5月に2040年には全国市区町村の半数にあたる896で若年女性が半分以上に減少し、自治体が消滅する可能性がある」と指摘し、危機感が広がっている。

また、アベノミクスによるマクロ的な経済再生は、大都市圏の都市部を中心に「景気回復感

にあることが明確になったと感じている。そして同じく9月3日に「成長戦略」の要となる「まち・ひと・しごと創生本部」が設置された。

このような安倍内閣による「経済再生」「国土強靱化」「成長戦略」「人口抑制制」「地方創生」という動きの中

このように、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、本県の取り組みと「地方創生」の方針について、県はどのように考えているのか。

人口減少問題や地域の活性化に向けて、国が進めようとしている「地方創生」について、県はどのように考えているのか。

住んで良かった千葉県へ

知事 来るべき人口減少社会において、活力ある社会を維持していくことは、本県においても重要な課題であります。国と地方が総力を上げて取り組むべきものと認識しています。

また、人口減対策の長期ビジョンと来年度からの5年間の総合戦略は年内に作成する事も示された。これらの国の動向を注視して、本県としても知事が目指すくらい満足度日本の達成のため、最大限の力を注いでいただくよう要望する。

知恵絞りの魅力づくり

このように、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、本県の取り組みと「地方創生」の方針について、県はどのように考えているのか。

鈴木まもる県議プロフィール

- 略 歴 ■
- 昭和26年 市川市若宮生まれ
- 私立市川高校卒業
- 専修大学文学部中退
- 市川市議会議員当選（4期）
- 市川市議会議長
- 千葉県議会議員当選（2期）
- 現 職 ■
- 県議会 総合企画水道常任委員会委員
- 千葉県 競馬組合議会議長
- 水道事業運営審議会委員

都市づくり、地域づくりのご意見、ご提言をお寄せください。

鈴木まもる 県議事務所 〒272-0021 市川市八幡3-29-20 秋葉ビル3F TEL 047-333-6000 FAX 047-322-3232

鈴木まもるホームページ http://www.suzukimamoru.com

HPもご覧下さい。検索 ちば自民党 議員リスト 県議会議員 市川市

県南部の人口減少挽回 「小さな拠点」構築不可欠

まともな雇用を創出

つて、全体の利便性を倍加することで効果を発揮する。一方、「地域再生ゾーン」には、長年の公共投資が効果を発揮し得ていない領域まで踏み込んだ施策を行い、民間資本を含めた県全体を「再生」することが方策ではないか。

県北地域には市川市、船橋市、松戸市、柏市、千葉市など中核になる「都市連合ゾーン」がある。このゾーンにはJRの4線、地下鉄線、京成線、北総線など東京へ向かう鉄道路線並びに国道6号、国道14号、京葉道路、首都高湾岸線、東関東、そして成田空港など長年の公共投資がなされてきた。

このゾーンではまず、これまでの公共投資の「ミッシングリンク」、つまり「失われた環」をつなぐことを時期を明記して実現し、民間資本を引き連れて、「ひらく黄金の道」のように全体利用者を倍加させることだと思おう。

26年度末に圏央道が東関東大栄JCTから常磐道までつながり、平成29年度に外環道が開通した状態を考えてみると、成田空港のある東関東圏央道と外環道三郷JCT、京葉JCT、高谷JCT、京葉道・東関東道というように北部地域一体の中で環状につながり、埼玉・茨城も含めて活性化できる基盤になるのではないか。この基幹道路網には、圏央道を除いて鉄道網も併行し

鈴木議員 本県でも、国交省の「グラウンドデザイン2050」が提起する「小さな拠点」と「高次地方都市連合等」のように、県南部地域の「小さな拠点」を必要とする「地域再生ゾーン」と県北部地域の人口50万人以上の「都市連合ゾーン」に、大きく2つに分けて考えることができると思う。そして、限られた財政投資の中で、「都市連合ゾーン」は、これまでの公共投資に少しく「追加」することによ

ており、双方の相乗効果で、「人口減少抑制」を超えて「人口増」が望めるのではないか。そして県南で人口減少しても県全体として「人口減少抑制」となるのではないか。

一方、本県南部の半島部地域については、国交省の「グラウンドデザイン2050」において、人口が「50%以上減少」するところが大半になっている。これを挽回

するためには、グラウンドデザインが提起するように、危機的な「消滅自治体」のような焼け野原の中に、「小さな拠点」の構築が不可欠。つまり、地元の少しまとまった雇用が生じる「小さな拠点」構築のために、いわゆる「最先端技術」に偏らない地元向きの一般的な農業・水産業、中小工場、福祉施設への公共投資方策を総動員

鈴木議員 2020年東京オリンピック・パラリンピックへ向けて、本会場へのアクセスの改善と、それを促した「地域再生」の方針についてうかがう。

東京オリンピック会場へのアクセス向上を 京葉道路と湾岸線直結 外環道の一部開通提案

する際には、グラウンドデザインが提起するように、危機的な「消滅自治体」のような焼け野原の中に、「小さな拠点」の構築が不可欠。つまり、地元の少しまとまった雇用が生じる「小さな拠点」構築のために、いわゆる「最先端技術」に偏らない地元向きの一般的な農業・水産業、中小工場、福祉施設への公共投資方策を総動員

一方、羽田空港を取り巻く状況については、さる6月18日、圏央道の「ミッシングリンク」であった相模原相川ICから高尾山ICの間が開通し、東名高速と中央道と関越道と東北道直前まで開通し、「ひらく黄金の道」と報道されている。

そして、平成26年度末には首都高速中央環状品川線を開通させることが確定している。2020年までの品川・田町駅間の新駅開設や20年代半ばの完成を目指している東京駅から羽田まで18分の新鉄道路線という報道などもある。

それと比較して考えると、2020年東京オリンピックの空の玄関となる我が成田国際空港から東京駅東南部の会場へのアクセスの改善・時間短縮が大きな課題だと思いが、どのような進捗を考えているのか。早め時期を明示して、いろいろな民間資本の背中を押す必要があると思うがどうか。

農林水産部長 県では、木更津市内におきまして、国の森林整備加速化・林業再生基金事業を活用し、厚さ3ミリメートル程度の薄い板を重ねて貼り合わせた合板の一種で、強度と品質が保証されたLVL(エルプイエル)を、新たな木材製品に加工する施設の整備を支援したところでございます。本事業の実施にあたりましては、地域材の利用量を増やすことが条件となっており、県では、事業者と森林組合等との間で協定を結ぶよう指導した結果、本施設におきましては年間2500立方メートルの県産木材の利用が確保されたところでございます。

こうして新たな木材製品をつくる施設整備は、県産木材の利用促進に大きく貢献するとともに、森林組合等の業務量が確保され、経営の安定化につながる。今後、県といたしましては、積極的に進めようと考えています。

鈴木議員 外環道の高速道路のうち京葉ジャンクションから高谷ジャンクションまでの一部先行開通ができればいいか。

鈴木議員 外環道は、現在、埼玉県の三郷南インターチェンジから高谷ジャンクションまでの間15・5キロメートルについて、平成29年度の開通に向けて工事が進められています。

戸有料道路と外環道入り口という現有道を活用した二つの暫定的な代替ルートが可能になるのではないか。そこでうかがう。平成29年度開通に向けた外環道の進捗状況はどうか。

鈴木議員 外環道は、首都圏の高速道路ネットワークの一翼を担い、県北西部の慢性的な交通混雑の緩和や地域の安全で快適なまちづくりを進めるうえで、極めて重要な道路です。

県内区間の12・1キロメートルについては、開通に必要な用地の取得を完了し、現在、京葉道路や東関東道の接続部や鉄道交差点部など、全線にわたって工事が進められております。

そこで、次善の策として、市川都市計画道路3・4・18号が市川ICまで開通する27年度末までに、京葉道路京葉JCTから湾岸線高谷JCTまでの間の外環道の一部開通できないか。

業者と森林組合等との間で協定を結ぶよう指導した結果、本施設におきましては年間2500立方メートルの県産木材の利用が確保されたところでございます。こうして新たな木材製品をつくる施設整備は、県産木材の利用促進に大きく貢献するとともに、森林組合等の業務量が確保され、経営の安定化につながる。今後、県といたしましては、積極的に進めようと考えています。

鈴木議員 外環道は、首都圏の高速道路ネットワークの一翼を担い、県北西部の慢性的な交通混雑の緩和や地域の安全で快適なまちづくりを進めるうえで、極めて重要な道路です。

県内区間の12・1キロメートルについては、開通に必要な用地の取得を完了し、現在、京葉道路や東関東道の接続部や鉄道交差点部など、全線にわたって工事が進められております。

そこで、次善の策として、市川都市計画道路3・4・18号が市川ICまで開通する27年度末までに、京葉道路京葉JCTから湾岸線高谷JCTまでの間の外環道の一部開通できないか。



建設が進む外環道の湾岸線結合部分

戸有料道路と外環道入り口という現有道を活用した二つの暫定的な代替ルートが可能になるのではないか。そこでうかがう。平成29年度開通に向けた外環道の進捗状況はどうか。

鈴木議員 外環道は、首都圏の高速道路ネットワークの一翼を担い、県北西部の慢性的な交通混雑の緩和や地域の安全で快適なまちづくりを進めるうえで、極めて重要な道路です。

県内区間の12・1キロメートルについては、開通に必要な用地の取得を完了し、現在、京葉道路や東関東道の接続部や鉄道交差点部など、全線にわたって工事が進められております。

鈴木議員 外環道は、現在、埼玉県の三郷南インターチェンジから高谷ジャンクションまでの間15・5キロメートルについて、平成29年度の開通に向けて工事が進められています。

このうち、京葉ジャンクションから高谷ジャンクションの間を先行的に一部開通することについては、工事の工程上、困難であると高速道路会社から聞いております。県としては、外環道の平成29年度の開通に向けて、引き続き、事業者である国と高速道路会社に働きかけてまいります。

北千葉道路の外環道〜鎌ヶ谷市間

メリット多い早期整備

鈴木議員 成田空港へのアクセスを考えると、北千葉道路は人口の多い埼玉県南部の外環道と東関道を直線的につなぐ優先順位の高い道路ではないか。

現在、北千葉道路は、鎌ヶ谷市から印西市の部分約20キロメートルが供用中だが、市川市側約9.5キロメートルと成田市側約13.5キロメートルの両側が「ミッシングリンク」になっている。この両端にある「ミッシングリンク」をつなぐことを2020年までに実現できないか。

このことで、外環道へつながる北関東からの成田空港へのアクセスが分散し、2020年に予想される湾岸線市川ICから葛西JCT間

の渋滞を緩和することになると思う。そこで、外環道から鎌ヶ谷

外環道から成田国際空港を最短で結ぶ幹線道路であり、国際競争力の強化、災害時における緊急輸送道路としても機能する、本県のみならず、首都圏にとつて大変重要な道路です。また、外環道から鎌ヶ谷

市間の約9キロメートル区間は、市川市、松戸市、鎌ヶ谷市など沿線地域における渋滞や、交通事故といった地域課題を解決するためにも、大きな役割を担う道路であると認識しています。県としては、こうした北千葉道路の整備効果は非常に大きいものと考えており、外環道から鎌ヶ谷市間の早期事業化に向けて取り組んでまいります。

鈴木議員 北千葉道路の外環道から鎌ヶ谷市間の取り組み状況はどうか。県土整備部長 北千葉道路の整備効果は非常に大きいものと考えており、外環道から鎌ヶ谷市間の早期事業化に向けて取り組んでまいります。

鈴木議員 「ミッシングリンク」が繋がれば、人口の多い埼玉県南部との住宅及び住宅地の「需要と供給」のマッチングが進み、北千葉道路沿線や印西市など千葉ニュータウン地区の人口増加に大きく寄与すると思

路の外環道から鎌ヶ谷市間については、国、県、沿線市で構成する「北千葉道路連絡調整会議」を設置し、計画の策定に向け、必要な事項を協議・調整しています。去る9月19日には、第4回の連絡調整会議を開催し、県から北千葉道路の基本構造の考え方を説明しました。また、今年度は、周辺環境の現況調査も実施しているところですが、引き続き、国と協同して、計画の早期具

体化を進めてまいります。鈴木議員 早期実現、事業化に向けて

北総鉄道利用客増加なども期待

鈴木議員 「ミッシングリンク」が繋がれば、人口の多い埼玉県南部との住宅及び住宅地の「需要と供給」のマッチングが進み、北千葉道路沿線や印西市など千葉ニュータウン地区の人口増加に大きく寄与すると思

われる。そうならば、北総鉄道の利用客の増加や、ひいては利便性の向上にもつながると思うがどうか。総合企画部長 鉄道利用客の増加には、鉄道事業者の努力はもとより、関係者が地域の活性化に取り組むこと等を通じて、地域自体の魅力を高めていくことも重要であると認識しています。

国の最低基準を満たす範囲で児童受け入れ

鈴木議員 保育所の待機児童についてだが、厚生労働省の保育所への入園円滑化策についての通知では「定員を超えている状況が恒常的にわたる場合は、定員の見直しなどに積極的に取り組むこと」とされている。

健康福祉部長 保育所の最低基準を定める条例については、国が省令で示す基準を原則としながら、学識

経験者や保育所関係者、保護者等からなる検討委員会においての議論等も踏まえ策定し、平成25年4月より施行しているところ

また、保護者の就業状況にも配慮するため、保育所における子どもの受け入れ時間を、原則11時間とすることを明記しています。

鈴木議員 保育所の待機児童についてだが、厚生労働省の保育所への入園円滑化策についての通知では「定員を超えている状況が恒常的にわたる場合は、定員の見直しなどに積極的に取り組むこと」とされている。

健康福祉部長 保育所の最低基準を定める条例については、国が省令で示す基準を原則としながら、学識

経験者や保育所関係者、保護者等からなる検討委員会においての議論等も踏まえ策定し、平成25年4月より施行しているところ

保育所待機児童

既存施設活用で解消を

鈴木議員 保育所の待機児童についてだが、厚生労働省の保育所への入園円滑化策についての通知では「定員を超えている状況が恒常的にわたる場合は、定員の見直しなどに積極的に取り組むこと」とされている。

健康福祉部長 保育所の最低基準を定める条例については、国が省令で示す基準を原則としながら、学識

経験者や保育所関係者、保護者等からなる検討委員会においての議論等も踏まえ策定し、平成25年4月より施行しているところ

また、保護者の就業状況にも配慮するため、保育所における子どもの受け入れ時間を、原則11時間とすることを明記しています。

鈴木議員 保育所の待機児童についてだが、厚生労働省の保育所への入園円滑化策についての通知では「定員を超えている状況が恒常的にわたる場合は、定員の見直しなどに積極的に取り組むこと」とされている。

健康福祉部長 保育所の最低基準を定める条例については、国が省令で示す基準を原則としながら、学識

経験者や保育所関係者、保護者等からなる検討委員会においての議論等も踏まえ策定し、平成25年4月より施行しているところ

0歳〜2歳児の対策で県小規模保育事業に助成

鈴木議員 県全体の保育所待機児童数は、平成24年4月1日現在で1352人、平成26年4月1日現在では1251人であり、都市部を中心に待機児童の解消がなかなか進まない状況。なかでも0歳児から2歳児に対する対策が重要と

思うが、今後どのように取り組んでいくのか。健康福祉部長 平成27年度から本格実施が予定される「子ども・子育て支援新制度」では、民間事業者が行う小規模保育事業や家庭的保育事業などが、市町村の認可事業とされます。

0歳児から2歳児を対象とするこれらの事業は、小規模な施設で対応できることから、新制度の開始により、特に保育施設の設置場所の確保が困難な都市部において、待機児童の解消につながるものと期待されます。県では、小規模保育事業

待機児童の解消に向けて取り組んでまいります。鈴木議員 先般、基準地価が発表され、地価の上昇、下落の二極化



議場の自席で一般質問を行う鈴木衛県議

が示された。そのような中、静岡県長泉町では、子育て支援が充実していることから、子育てしやすい町として地価が上昇したそうだが、地域の活性化や人口減少対策には子育て支援が重要な行政課題であることを物語っている。平成23年12月議会の一般質問で私が提言した地域限定による時限措置として、国の最低基準を満たす範囲で児童を受け入れることを可能とすれば、待機児童解消の効果は大であると思う。待機をしている保護者は一日も早い入園を希望している。先ほど、小規模施設の活用により待機児童の解消が図られていくと答弁があったが、願わくば、既存施設の活用によって解消を図っていただくよう要望する。



（仮称）押切橋の架橋が計画されている江戸川（市川市押切地先）

構造を東京都と検討

（仮称）押切橋 整備調整会議を開催

鈴木議員（仮称）押切橋建設に向けての今後の見通しについて、平成25年9月定例会議会において質問した。この際（仮称）押切橋は整備が必要な計画であり、具体化に向けて東京都と協議し、着実に推進していきたいとの答弁を得た。が、その後の（仮称）押切橋の進捗状況はどうか。

県土整備部長 葛南地域における都県境では、江戸川及び旧江戸川に架かる限られた橋梁に交通が集中することから、交通混雑をきたしているところであり、（仮称）押切橋については、今後、整備が必要であると認識しています。

今年度は、架橋に伴う周辺道路への影響を確認するため、交通状況を調査するとともに、本年7月には東京都と「道路橋梁整備調整会議」を開催し、縦断勾配がきついななどの道路構造上の課題について、検討を進めているところとあります。

今後とも外環道供用後の交通動向も踏まえ、引き続き課題の解決及び計画の具体化に向けて東京都と十分協議を進めてまいります。

再質問
鈴木議員（仮称）押切橋の今後の見通しについて、どのように考えているのか。大規模災害時の帰宅困難者対策として、早期に予算要求できるのではないかと思うがどうか。

国の直轄権限代行事業といった形態を考慮すべきと思うがどうか。

県土整備部長（仮称）押切橋に関するご質問の3問につきましては、関連してありますので一括してお答えいたします。

市内の空き家36万7千戸 市町村と連携し対策

鈴木議員 少子高齢化、人口減少や核家族化の影響の一つとして、近年、空き家問題が顕在化し、クローズアップされてきている。総務省調査では全国で820万戸、住宅総数に占める割合は13.5%となり、5年前に比べて63万戸余り増加し、過去最高になった。

第一義的には市町村が対応すべき問題かも知れないが、山形県、東京都、福岡県など空き家活用対策に積極的に取り組んでいる都道府県も見られる。そこで、県内の空き家の状況はどうか。

県としては現在、事業中の（仮称）妙典橋、行徳橋の整備をまず着実に進めることを最優先と考えております。（仮称）押切橋に関する予算の要求及び権限代行などといった事業手法などについては、計画が具体化された後に、東京都と協議し、検討されていくものと考えています。

鈴木議員 現状を踏まえて、空き家対策にどのような取り組みをされているのか。

都市整備局長 空き家対策は、防犯・防火面、衛生面や景観に対する影響など、地域により様々な問題があることから、その地域の実情に合わせて、その活用等、対処方法を考える必要があります。地域の状況に精通した市町村において主体的に取り組むことが重要であると考えております。

県では、市町村や住宅関係団体で構成する「すまいづくり協議会」を設置し、その中で、空き家の活用や除却に活用できる国の補助事業の紹介や、各市町村の空き家問題の実態や実施している対策についての情報共有等を行っているところであります。今後とも、市町村と連携しながら、空き家対策に取り組んでまいります。

鈴木衛県議の県議会本会議質問項目

- | | | |
|--|--|--|
| <p>平成26年9月定例会一般質問</p> <ul style="list-style-type: none"> 地方創生について 東京オリンピック・パラリンピックへの取り組みについて 保育所の待機児童について （仮称）押切橋について 空き家対策について | <p>平成24年2月定例会予算委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 私立学校経常費補助について 三番瀬再生について 災害時における地域福祉への県の役割について 外環道路整備について | <p>平成22年6月定例会一般質問</p> <ul style="list-style-type: none"> 国分川調整池のあり方について 道路行政について 教育行政について |
| <p>平成26年2月定例会予算委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 子供医療費助成の拡充について チーバス事業の充実内容と今後の見通しについて 障害者福祉について 特別養護老人ホームの整備補助金について | <p>平成23年12月定例会一般質問</p> <ul style="list-style-type: none"> 市川都市計画道路国分下貝塚線の整備について 市川塩浜護岸の安全対策と干潟の再生について 保育所の待機児童の解消について | <p>平成21年6月定例会一般質問</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京外かく環状道路について 市川市の9分類22項目の要望 |
| <p>平成25年9月定例会一般質問</p> <ul style="list-style-type: none"> J R 武蔵野線新駅構想における新たな街づくりについて 道路整備について <ul style="list-style-type: none"> (1)北千葉道路 (2)市川都市計画道路鬼高若宮線 (3)市川都市計画道路柏井大町線 江戸川左岸流域下水道市川幹線について 治水事業（大柏川第2調整池）について （仮称）押切橋について 高齢者向け優良賃貸住宅について | <p>平成23年6月定例会一般質問</p> <ul style="list-style-type: none"> 県立学校施設の地域開放について 市川塩浜護岸について 江戸川第一終末処理場について 行徳橋について 災害時要援護者避難支援プランと災害時救急医療体制について | <p>平成20年9月定例会一般質問</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京10号線延伸新線について 県内水道事業について 市川航路及び泊地の安全対策について 三番瀬について |
| <p>平成25年2月定例会一般質問</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京外かく環状道路について 三番瀬再生について 旅券事務について 特定優良賃貸住宅について | <p>平成22年12月定例会一般質問</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京10号線延伸新線について 京葉道路原木インターチェンジ周辺の道路問題について 市川地先の人口海浜施設の移管について 市川航路の浚渫土砂の有効利用について 少人数学級の推進について 障害のある子供の放課後活動の制度化について | <p>平成20年3月定例会予算委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育について |
| | | <p>平成19年12月定例会一般質問</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康福祉施策の積極的展開について 県立現代産業科学館の今後の運営について 行徳近郊緑地の整備について 千葉県血清研究所の跡地利用について 市街地再開発事業の支援について 風致地区の見直しについて 放課後児童クラブについて |
| | | <p>平成19年6月定例会一般質問</p> <ul style="list-style-type: none"> 三番瀬について 道路問題について 葛南広域公園について 特別支援教育について |